



# Little Diamonds

## JUNIOR YOUTH

# 第21回日本クラブユース(U-15)選手権出場決定 関東大会では4位に

7月9日まで、第21回日本クラブユース(U-15)選手権関東大会を戦っていた浦和レッズジュニアユースは、1日の決勝トーナメント1回戦で三井千葉に快勝。全国大会出場を決めた。その後、準々決勝で前橋エコーに勝ちベスト4に進んだが、8日の準決勝で柏レイソルU-15に惜敗。翌日の3位決定戦でも横浜M追浜に延長の末敗れ、4位に終わった。レッズジュニアユースが全国につながる公式大会で敗れるのは、昨年と同じ関東大会準々決勝で三菱養和にPK負けして以来1年ぶり。

県大会から通算して11試合無敗で全国出場を決めたものの、昨年からのライバル(全国大会で2度PK勝ち)、柏に敗れ、さらに横浜M追浜にも勝てなかったことで、選手たちの気持ちはかえって引き締まった。持ち前の得点力に加えて、70分間集中した守備で、全国の強豪と1試合でも多く戦うために、練習に意欲を燃やす。(写真はすべて三井千葉SC戦から)

### 後半リズムつかみ圧倒 ~ 三井千葉戦 (決勝トーナメント1回戦)

26分、礪部の左クロスに利根川が頭で合わせて先制するが、前半はペースをつかみきれずに終わった。後半は全員が前へよく動いて攻撃にリズムができ、相手を圧倒。15分に原口がDF3人を抜いて2点目を挙げた。さらに34分、石沢が右を突破した折り返しを高瀬がニアでヘディングシュートし駄目押し。さらにロスタイムには高瀬がGKと交錯してこぼれた球をすかさず蹴り込んだ。



礪部裕基

利根川良太



加瀬 光

眞本啓太



矢島倫太郎



石沢哲也



森田健介



原口元気

### やれる手ごたえと、 緩みが許されない経験

監督 名取 篤

関東大会では、もっと上に行けたかな、という思いがある反面、全国大会に向けては負けたことがいい経験になったと思います。また、いい経験にしなければなりません。選手たちも、強いチームを相手にまずまずやれる、という手ごたえをつかんだと思いますが、一方で気の緩みというか、チャレンジすることを忘れるとやられてしまうことを学んだはず

です。

準決勝の柏戦は、先制点を取って逆転されて1-2でハーフタイムを迎えたので、こういう状況をどう打開するのか、またない経験だと思いました。そこでいったんは後半2-2に追いつけたことは、そういう力があるということでしょう。次の1点を取れるか、というのが課題ではありますが、選手たちも、全国の場でもう一度、柏や横浜M追浜と戦いたいという気持ちが強いはず。

去年から少し試合に出ている選手もいますが、ずっと先発だったのは森田ぐらいで、みんなベンチで

見ていることが多かったですから、今年は「どうしてもあの場所に立ちたい」という気持ちは強いと思います。それが伝わってくる大会でした。

全国大会まで1ヵ月足らずで急にうまくなる訳ではないですから、これまでやってきた、一対一で攻撃、守備とも積極的に仕掛けられるように。それとセットプレーでやられないこと。そしてフィジカル的にもう少し伸ばしたいと思っています。また試合の中で、全員の意識を「今は攻撃だ」「今は守備だ」と統一することが大事で、そこでリーダーシップを取れる選手がもっと出てくることに期待します。

# 関東大会を終えた選手たちの声

## 遠征で選手の仲が良くなった



MF 池西 希

柏戦と追浜戦に負けてしまったので、すごく悔しかったですが、次につながればいいと思ってます。柏は強かったですが、自分の球際の弱さで負けてしまったので、そこを一つ一つ意識して練習していけば次はいい結果が出せると思います。

みんな練習は熱心なので。

今年のチームは去年の3年生に比べて子どもっぽい選手が多いです。自分もそうですが(笑)、関東大会の遠征で、選手同士の仲がすごく良くなったと思います。

途中から試合に入るときは、チームの流れが良いときの方が難しいですね。みんな速いのでそこまで自分を上げるのに苦労します。逆に流れるが悪いときは自分が引っ張っていいこうという気持ちになります。

## 2試合がいい教訓になった



GK 原 豊寛

全国大会出場を決めた三井千葉戦は、決勝トーナメントということで自分も気が入っていたのですが、立ち上がりがあったりしてしまっていたので、もっと厳しく締めないといけないと思いました。準決勝では、まさか負けるとは思わなかったのですごくショックでした。

レッズジュニアユースにいます、上の大会に行かないとGKとして危ないシーンが少ないので、体がなまってしまふところがあって、いきなりのミドルシュートに反応できなかったりします。自分で自分を高める努力をしていかなないと全国では通用しないかもしれません。

県大会で無失点で優勝して、自分たちが強いと勘違いしていたと思います。関東大会での最後の痛い2試合がいい教訓になりました。負けた2チームとは全国で当たって借りを倍ぐらいにして返したいです。これからは負けている状況でも、声をよく出して仲間を鼓舞し、自分でも頑張っていきたいと思っています。

## ゼロに抑えれば前線が点を取る



DF 大里康朗

関東大会では、やはり柏に負けたのが悔しかったです。次に当たったときは最後まで集中力を切らさないようにしたいです。一度2-2に追い付いたのに負けてしまったのは、やはりDFが我慢できなかったのだと思います。

DFがゼロに抑えれば前線が点を取ってくれと思いますから。勝っていても負けていてもやることは変わらないですが、負けているときはよりチャレンジしていきたいと思っています。

今年のチームは相手陣内に入ってからからの攻撃が速いです。関東大会で負けたことで、みんな自分のレベルアップのために練習を頑張っていると思います。

## 柏戦、次こそ無失点で勝つ



DF 長谷川 凌

関東大会でベスト4に終わって、やっぱり優勝しかなかったな、と思います。準決勝の柏戦は、最後に自分の方からクロスを入れて決めてくれたので悔しいです。次に全国で当たったときは絶対に無失点で勝ちたいし、一対一で負けないようにしたいです。今年は攻撃陣に素晴らしいメンバーがいるので、去年よりも攻撃的な、魅力的なサッカーができると思います。

関東大会を通じて、中盤から前線にかけての守備の意識が強くなったな、と思います。相手が強くなると、それがなくてはやられてしまいますから。他のチームの百倍努力して、全国優勝したいです。

## これからもっと体力をつけたい



FW 高瀬優孝

三井千葉戦で2点決めることができたのはうれしかったです。特にヘディングシュートはほとんどなかった。途中出場が多いんですが、百集年のために前線からプレッシャーをかけていって余裕が出たらゴールを狙うようにしています。前橋エコー戦ではフル出場だったので疲労がすごかったですが、気持ちよかったです。

柏戦は何もできずに負けてしまったので、すごく悔しいです。自分は小学生のときレイソルにいたので、選手もほとんど知っていて、勝ちたいという気持ちがよく強いんです。これから体力をつけて走り負けしないようにして、全国大会では絶対に勝ちたいです。今年のチームは練習のときから激しくやって充実していると思います。

## 一日一日を大切に練習していく

MF 渋谷将太



準決勝の柏戦は、アップのときからみんな盛り上がっていて、結果的には負けてしまいましたが、みんな頑張っていたし、僕が後半の途中から入ったときも、絶対に勝つてやろうという雰囲気でした。負けているときに入るのは滅多にないので、気持ち的に厳しいこともありました。あの経験を全国大会で生かしたいです。これから一日一日を大切に練習して、全国大会の暑い中でも戦っていけるといいと思います。今年のチームは元気があって、気持ちだけは負けたくないチームです。僕もぜひ点を取りたいです。

## 声も出て、チームの雰囲気はいい



DF 山崎大成

関東大会では前橋エコー戦と横浜M追浜戦に出ました。やはり関東大会はレベルが高かったです。去年も大会のメンバーには入っていましたが出られなかった。今年こそは、という気持ち強いんです。

最後に柏と横浜M追浜に負けましたけど、それをバネにして頑張っていきたいと思います。みんなベンチからも声を出して盛り上げていますので、チームの雰囲気はいいと思います。負けているときも周りが頑張れるようにみんなでサポートしていきたいです。

を出して盛り上げていますので、チームの雰囲気はいいと思います。負けているときも周りが頑張れるようにみんなでサポートしていきたいです。

## 一対一に強くなるよう努力する



DF 高橋秀行

関東大会では2試合に出ました。全国に行けてうれしいという気持ちと、関東4位という成績にはもう少し上に行けたんじゃないか、という思いがあります。3位決定戦のとき、自分のミスで先制されたのが残念だった。良かったと思うのは、みんなで声を掛け合ってきたことです。これから

して、特に一対一に強くなるように努力していきます。

## ACTION RESULT

### 日本クラブユースサッカー(U-15)選手権 関東大会決勝トーナメント

- ・1回戦 7/1 4-0 三井千葉 SC  
得：利根川良太、原口元気、高瀬優孝 2
  - ・準々決勝 7/2 3-1 前橋エコー  
得：池西希、高瀬優孝、矢島倫太郎  
(以上、草津本白根グラウンド)
  - ・準決勝 7/8 2-3 柏レイソル U-15  
得：利根川良太、磯部裕基
  - ・3位決定戦 7/9 2-3 横浜M追浜  
得：岡本拓也、池西希
- \*関東第4代表として全国へ

## ACTION SCHEDULE

### 日本クラブユースサッカー(U-15)選手権

- ・8/12~14 Hグループリーグ  
12日 vs 徳島ヴォルティス (15:00)  
13日 vs 名古屋グランパス (13:00)  
14日 vs 高田FC (10:30)
- ・8/16 1回戦
- ・8/17 準々決勝
- ・8/19 準決勝
- ・8/20 決勝  
(会場はJヴィレッジ)

### ジュピロカップ(U-13)

- ・8/22~8/24  
(静岡県)

### 宮城スタジアムカップ2006

- ・8/20~23  
(宮城県陸上競技場など)

# プリンスリーグ 来季のシード権を守る 千葉ユース戦、ロスタイム決勝ゴール

浦和レッズユースは、2006プリンスリーグ関東U-18を総合12位で終え、来季のプリンスリーグ出場権を確保した。高円宮杯2年連続出場はならなかった。

4勝3敗のAグループ4位で、7月2日にリーグが再開。第8節は、小山南高校に後半追い付かれながら、途中出場の広瀬祐太、林容平がゴールを挙げ3-1で勝利し、高円宮杯出場に可能性を残した。

勝てばAグループ3位が決まる最終節は、日産フィールド小机で横浜Mユースと対戦。押し込まれることが多く、PKやセットプレーなどで後半11分までに3点を先行されたが、12分に広瀬、14分に鈴木竜基が得点して追いつけた。しかし同点を狙って攻勢を続ける中、カウンターから4点を失い試合終了。通算5勝4敗でAグループ6位となった。

Bグループの7位と対戦する総合11~14位決定1回戦は、来季のシード権(12位以上)がかかる土壇場の試合。ロングボールを多用する千葉ユースに対し、中盤を作って攻めるレッズユースは前半40分、山田直輝が相手ボールを奪って右サイドの高橋峻希に送り、高橋が先制した。

しかし後半6分、ゴール前へのロングパスを合わされ同点。延長かと思われたロスタイム、相手スローインを丸山和男がカットし、そのボールを鈴木が拾ってDFとGKをかわして決勝点とした。

最終日、7月17日の11~12位決定戦は、ヴェルディユースに後半先制され、すぐに追い付いたが、終盤、FKのこぼれ球を詰められ1-2。総合12位が確定した。

(1面の写真はすべて千葉ユース戦から)



後半ロスタイム、鈴木竜基が決勝ゴールを挙げる丸山和男



決勝点を挙げた鈴木を迎えるキャプテンの金生谷仁



金子大樹



丸山和男

2006プリンスリーグ関東U-18 11~14位決定戦			
7月15日 長生フットボールパーク			
ジェフ千葉ユース	1 前0 後1	VS	前1 後1
遠藤敬佑 (後半6分)	得点	得点	高橋峻希 (前半40分) 鈴木竜基 (後半44分)
浦和レッズユース			

山田直輝



先制点を決めた高橋峻希



永田拓也



## 悔しい経験を 今後に生かして

監督 広瀬 治

今季は、春休みに20試合ぐらい戦って負けなしでしたが、プリンスリーグも初めての3試合は苦戦もしながら勝ち続けることができたので、何とかいけるかなと思いましたが、FC東京に負けたあたりから、少し疲れが出てきたかもしれません。そこで3連敗してしまって、メンバーも替わってチームのまとまりに欠けるところが出てしまいました。

この序盤の3連敗が最後まで響いた形です。その時期は、一人ひとりの気持ちは入っていても、チームのために一つになってがむしゃらにプレーする、ということが後回しになっていました。そこで、やられても取り返す、という粘りがなくなってしま

た。クラブユースの関東予選をはさんで、プリンスリーグの後半戦は粘りも出てきたと思います。

全体的に、崩されて取られた場面はほとんどなく、PKやセットプレーからの失点がほとんどでした。その点は集中し直すことが必要でした。攻撃に関しては、DFラインがワイドに上がっていったときに、ポイントのところにシンプルにボールをつないでいったときはいい攻撃ができていたと思います。ロングボールを使ってくるチームが多かったですが、そこでの対応でもっと力強くはね返すことができれば、もっと違った結果になっていたかもしれません。シード権のかかった瀬戸際の千葉戦は、後がない試合をいくつか経験してきて、みんながひたむきに頑張った結果が出たと思います。

チームの戦い方として、終盤どうしても点が必要となるときは別にして、1本のパスでゴール前に行くと

いうやり方を探っていませんし、攻撃のときの決め事を細かく作っておけば、もう少し点は取れたかもしれませんが、果たしてそれが選手にとってどうだろうか、という気がします。守備にしても、細かくすべて伝えるというよりは、試合を経験して自分で感じることを重視してきました。今は結果が出なくても、そこで選手たち自身の判断というものが入りますから、将来サッカーを続けていく上で必ず生きるだろうと思っています。しかしそこで全国大会に出られれば、さらに成長できる機会があった訳で、非常に残念です。

3年生については、個々の進路などに合わせて練習を続けていくこととなりますが、コンディションが良く事情が許せば秋からのJユースカップにも出場してもらいます。そこで悔しい思いをした相手に雪辱する機会を持ちたいと思います。

# プリンスリーグ 終盤の戦いから

(選手のコメントは、その試合のものではありません)

## 2006プリンスリーグ関東U-18 第8節

7月2日 駒場スタジアム

浦和レッズユース 3 前1 後2 VS 前0 後1 1 小山南高校

金生谷 仁 (前半 8分)	得点	得点	滝澤 将 (後半 32分)
広瀬祐太 (後半 35分)			
林 容平 (後半 44分)			

駄目押し点を挙げた林容平



ヘッドで決勝ゴールを挙げる広瀬祐太

村松勇太

## 勝負してチャンスを作る自信ある

村松勇太

第7節の市船高戦では生涯初めての警告を2枚もらって退場になってしまいましたが、ハーフタイムに、自分のために頑張ろうとみんなが言ってくれて、そのとおり頑張って勝ってくれました。それを見て、今度から苦しいときにもチームのために頑張ろうと思いました。

点が欲しいときに途中から出る人が多いのですが、先発でなくてもそういうときに使われるのはうれしいですし、期待にこたえたいです。どんどん勝負してチャンスを作りたいと思いますし、自信もあります。最後の横浜M戦では、何度かいい場面を作れたと思っています。

これから、まず大学進学を決めたいと思っていますが、Jユースカップではこれまで負けたチームと当たるので、できれば出場して雪辱したいです。



## 2006プリンスリーグ関東U-18 第9節

7月9日 日産フィールド小机

横浜Mユース 4 前1 後3 VS 前0 後2 2 浦和レッズユース

森谷賢太郎 (前半 23分)	得点	得点	広瀬祐太 (後半 12分)
武田英二郎 (後半 2分)			鈴木竜基 (後半 14分)
斉藤 学 (後半 11分)			
金井真史 (後半 44分)			



宮川貴司



佐藤謙介



鈴木竜基

## 最後は気力で決めたゴール

鈴木竜基

悔いが残った大会でした。自分自身はほぼ毎試合1点は入れていたので、そのことは良かったのですが、チームが勝てなかったのはやっぱり悔しかったです。今年は去年よりコンスタントに試合に出してもらっているので、結果も出せていると思います。そういう点では成長していると思います。一番印象に残っているのは、10人でチームが一つになって戦って勝った市船戦です。

千葉戦で決勝ゴールを挙げましたが、後輩のために何か残さないといけないと思っていて、来年のシード権を取るために最後は気力で頑張りました。自分で決めなくても、思っていました。結果的にあれが一番思い出に残るゴールです。

これからも、プロになるための道を探っていくつもりです。

## 2006プリンスリーグ関東U-18

11位決定戦

7月17日 市原スボレクパーク

ヴェルディユース 2 前0 後2 VS 前0 後1 1 浦和レッズユース

征矢智和 (後半 39分)	得点	得点	鈴木竜基 (後半 40分)
高橋賢人 (後半 44分)			



蟹沢真人



村上裕磨



中山 透



小林優平



田中宏育

## 千葉戦は一体感を持って戦った

蛸原弘貴



蛸原弘貴

プリンスリーグの結果には満足していませんし、自分自身も途中出られなかったこともあって残念です。

ちょっとチームの雰囲気が悪くなったときに、3年生が前に出て引っ張っていく必要があったかと思いますが、それができずに最後の横浜M戦で勝つことができずに残念です。

千葉戦は、3年生の残り試合が少ないとみんなわかっていたので一体感を持って、チームのために頑張ろうという気持ちでできました。試合内容も良かったと思います。

自分の特長として縦に行くドリブルが得意なので、クロスを入れるプレーが多いですが、それが点につながった場面もあります。今後もしも可能性を求めて練習を続けていきたいです。Jユースカップで再戦したいチームも多いです。